



東京全労協

2014年11月4日 68
東京都港区新橋6-7-1
川口ビル6F
TEL. 03 - 5403 - 1650
FAX. 03 - 5403 - 1653
発行人 纈纈 朗
定価 1部 10円

東京全労協（12月6日） 第25回定期大会を

成功させよう！

◎東京地域労働運動を進展させ、 労働者の生活と権利を勝ち取ろう

安倍政権は愚かにも、人類の英知というべき平和憲法を廃棄し、「戦争をする国」に向けて準備を進め、これまで憲法違反とされてきた集団的自衛権の行使容認を閣議で決定するという許し難い暴挙を行いました。

昨年末、国家安全保障会議（日本版NSC）を設置し、敵罰によって情報を統制し、「知る権利・報道の自由」を奪う特定秘密保護法の制定を強行し、さらに、武器輸出三原則を見直し、軍需産業と一体となり「武

器輸出」を拡大させる「防衛装備移転三原則」の決定をも強行しました。沖縄では県知事選を前に辺野古新基地建設の既成事実を作るために、沖縄民衆を暴力的に排除しボーリング調査を強行しています。こうした暴挙は、年内の改定をめざす新たな日米防衛協力のための指針「ガイドライン」の中間報告に連動し、自衛隊が世界規模で米軍を支援していくとする日米同盟の深化に繋がるものです。

安倍政権は新たな成長戦略を掲げ、原発の再稼働や海外輸出を推進しています。これに同調するように原子力規制委員会は、川内原発が「新規制基準」に適合しているとの審査結果を発表し、事実上の原発再稼働に踏み込みました。福島第一原発事故から3年半が経過しているが、未だに14万人以上の人々が故郷を追われて避難生活を余儀なくされ、除染作業では下請け労働者の劣悪な被ばく労働と危険手当等のピンハネが明らかになってい

ます。さらに、放射能の放出は空気中に留まらず、貯留タンクや湧き水から高濃度の放射能汚染水が海に流出しています。安倍政権は「日本を世界で一番企業が活動しやすい国にする」と主張し、労働者を保護するための労働法制を改悪し、労働者や国民の生活よりも企業利益を優先する政策を強めています。「日本再興戦略」と「規制改革実施計画」を閣議決定し「雇特区」を設け、労働規制の全面撤廃をもちろ

み、労働者派遣法の全面改悪を図ろうとしています。こうした反動化する政治社会状況にあって、労働運動が果たす役割が問われています。東京全労協は、誰もが安心して働き、生きていける世の中をつくることを「当たり前」の労働運動」として展開していきます。そして、いまの不条理をつくり出した政治の問題、職場における賃金や労働条件、権利の問題等を労働組合の原則を確認したうえで、労働者民衆の期待に応えられる運動をめざします。

人間が人間を搾取・抑圧・支配する世の中を変えるのは、労働者の歴史的使命です。多くの仲間参加によって活発な議論を行い、労働者の生存権をかけて闘う方針を確立しようではありませんか！

は空気中に留まらず、貯留タンクや湧き水から高濃度の放射能汚染水が海に流出しています。安倍政権は「日本を世界で一番企業が活動しやすい国にする」と主張し、労働者を保護するための労働法制を改悪し、労働者や国民の生活よりも企業利益を優先する政策を強めています。「日本再興戦略」と「規制改革実施計画」を閣議決定し「雇特区」を設け、労働規制の全面撤廃をもちろ



10・3（第158回）東京総行動（2014年10月3日）より

10・17戦争への道を許さない東京集会

纈纈議長が連帯の
決意表明を行う

10月17日「戦争への道をゆるさない東京集会」は日比谷公会堂に1900人が結集した。

前泊博盛さん（沖縄国際大学教授・元琉球新報論説委員長）の講演は日本の過去から現在、世界情勢など多岐に渡り、「日本政府は危険な米軍基地と



去から現在、世界情勢など多岐に渡り、「日本政府は危険な米軍基地と

演壇の脇には、全労協と東京全労協、国労・東水労・全統一・全国一般なんぶなどの組合旗が掲げられ、連帯の決意表明では東京全労協・纈纈朗議長が力強く発言を行った。

原発を、沖縄・福島など地方に押しつけ、都合が悪いことはすべてでなかつたことにしてきた」など鋭く安倍政権を批判した。集会の主催は戦争をさせない東京1000人委員会

大好評 11・26東部けんり総行動 秋の一日都内争議巡り

（都営観光バスで7箇所を回ります。お弁当付）

- 11・26（水） 東部けんり総行動
- 9時00分 JR日暮里駅東口イベント広場集合
- 西日暮里・フジビ社前申し入れ（偽装倒産・解雇）
- 本郷・市進社前申し入れ（51歳雇い止め）
- 御茶ノ水・井上眼科（福井さん解雇）
- 御茶ノ水・フロラシオン青山（ホテル閉鎖）
- 大手町NTT社前（木下さん解雇・N関労・電通労組）
- 霞が関・国土交通省前・JAL（整理解雇）
- 赤坂見附・鹿島建設（除染危険手当ピンハネ等）
- 16時00分頃解散 申し込みは090-8302-4337東部・雨宮まで

全労協第26回定期大会を 開催し闘う方針を決定

開催し闘う方針を決定

全労協は9月21～22日、第26回定期大会を開催した。全国から1200名余の代議員と傍聴組合員が参加し、次年度の活動方針と新執行体制を決定した。

遠藤常幹の開会あいさつの後、議長団として樋口代議員（国労）、斎藤代議員（東京清掃労組）が選出された。

金澤議長は「安倍首相が進める川内原発再稼働、集団的自衛権容認による戦争準備阻止、消費税増税、労働法制改悪など生活破壊に断固反撃しよう」と挨拶した。

4名の来賓から激励の挨拶を受け、争議団を代表してJAL原告団の清田事務局長が決意表明を行った。全労協顧問の藤崎良三さんは「格差と貧困社会に毅然と立ち向かう全労協たれ」と力強い挨拶を行った。

中岡事務局長は、25期経過報告と26期活動方針を提案、会計・監査報告と予算案提案が行われ討論に移った。2日間の討論では述べ24人の代議員から発言があった。

一日目は争議と闘いの報告が行われ、メトロコマ



全労協 第26回定期大会（9月21～22日）

スの闘い、フジビ闘争、NTTと闘う木下争議と沼田争議、井上眼科病院不当解雇撤回闘争、横浜市教委による分限免職との闘いなどが報告された。二日目は主に活動方針と組織建設を討議し、安倍政権による貧困と格差拡大、労働法制改悪との闘い、戦争策動と教育政策、労働者の生活と権利を守る闘いにはストライキを構えることが重要であること、14春闘をストライキで闘った郵政ユニオン、全国一般東京東部労組、全統一労組から報告があった。

さらに、全統一労組から外国人労働者と共に闘おうと訴えがあった。

東京全労協の久保事務局長は、長年の取り組みである沖縄平和行進と横田基地反対闘争の報告を行い、安倍政権が進める戦争策動との闘いは沖縄闘争が重要であり、全労協として辺野古新基地建設反対現地闘争へ支援・連帯の取り組みを強化することを提案した。

討論を受けて中岡事務局長は、組織化、労働法制改悪反対、集団的自衛権行使阻止の闘いと、沖縄辺野古新基地建設阻止・各地の基地反対を結びつけた闘い、川内原発の再稼働阻止、青年運動、OB・OG組合員の協力のもとに組織建設を進めると集約し、各報告と提案は採決され、金澤議長の団結ガンバローで大会は締められた。

第20回 練馬全労協定期大会開催

9月24日練馬区勤労福祉会館において第20回練馬全労協定期大会が開催されました。50名の参加者が会場を埋め尽くす中、開催されました。

冒頭、三澤議長より「安倍政権の暴走に歯止めをかけるべく、今こそ労働組合の結集である全労協が闘う姿勢を強化していかなければならない」と力強い挨拶がありました。

来賓として東京全労協顧問議長より、反戦・平和のとりくみとして東京1000人委員会と沖縄辺野古基地問題への積極的な参加の要請があり、北部労協吉田事務局長と練馬区労協山本議長から集団的自衛権と労働法制の規制緩和、原発再稼働と輸出反対、東京土建練馬支部桑原書記長から世田谷区での公契約条例制定等の報告がありました。また、東京都労働相談情報センター 池袋事務所の山本さ



んも駆けつけて頂き、来賓の皆様より激励の挨拶をいただきました。

この間の主な取り組みとして、第3回単組交流会（13年10月23日）、春闘決起集会（14年2月17日）、春闘学習会『労働ビッグバン攻撃の問題点と労働組合の取り組み』、講師「全労協・労働法制プロジェクト」事務局長・遠藤一郎氏（2月27日）、福島県民大集会（3月8日）、多摩全生園お花見学習会（4月6日）、『沖縄戦を考える練馬のつどい』に参加（6月20日）。

映画『標的の村』の上映会を練馬文化センターで実施しました。

2014活動方針では、国家安全保障会議の設置・特定秘密保護法制定・武器輸出3原則撤廃・集団的自衛権行使容認・労働法制改悪・TPPへの反対を大きな柱として提案しました。

その中で練馬全労協の課題としては、春闘・争議闘争・地域闘争・JAL不当解雇撤回闘争等すべての差別に對し闘います。また、憲法改悪・原発・核兵器に反対し、反戦平和運動を進めていくために交流会・学習会・決起集会を開催し、練馬地域ユニオン・北部労協と連帯し、練馬全労協の強化を図る事を確認しました。

その後各単組報告と2014年度予算・役員体制・大会宣言を満場一致で確認し、今大会で退任する全水

道東水労練馬地区協の芦崎副議長の団結ガンバローで大会をしめくりました。

練馬全労協結成から20年が経過しました。この間国内外の情勢はめまぐるしく変化し、大きな災害にも見舞われました。取り組まなければならぬ課題は山積しています。

労働運動が緩やかに衰退している中、反戦・平和・差別撤廃と労働者の権利を守る闘いをいかにして広げていくか。結成21年目、安倍政権という強大な敵を目前にして労働組合の団結力が試される大きな節目を迎え、練馬全労協はなお一層頑張って活動していきま



10・26団結まつりで出店！

今年の団結まつりは、「安倍はやメロ！10・26団結まつり」をメインタイトルとして、サブテーマに「秘密保護法」廃止、「集団的自衛権」閣議決定撤回・など広がる闘いと連帯、人間らしい働き方を実現させていくため、すべての争議勝利と「非正規労働」撤廃、原発廃止、改憲阻止、戦争と貧困のない社会をつくりだす団結まつりとして開催されました。



東京全労協は例年通り、争議支援の情宣や物販、焼きそばを出店して参加しました。今年も全部で128食を完売しました。調理には両宮常幹を料理長に、郵政の仲間も調理に加わり、また販売には東京労組のフジビの仲間が担当していただきました。テント裏では、隠れた楽しみの一つとしてBBQも準備しました。炭焼きでサンマ、イカ、しまほっけ、焼き芋、カボチャなど。鉄板焼ではジンギスカンも準備しました。来年は少しメニューも増やし、鉄板サイズ大きく調理をしたいと思



ます。（岩野浩昭）